

第4回
平戸市総合戦略策定委員会
会議録

と き：平成27年11月9日（月）13：30～15：45

ところ：平戸市役所3階大会議室

○日時

平成 27 年 11 月 9 日（木） 13：30～15：45

○場所

平戸市役所 3 階大会議室

○出席委員（氏名 50 音順、敬称略）

赤木、荒木、田中、石川、竹田、田淵、富崎、豊増、西原、古川、松尾、松山、
行成

○欠席委員（氏名 50 音順、敬称略）

寺田（勝）、寺田（孝）、

○次第

1. 開会

2. 報告事項

①会議録の確認について

3. 議事

①平戸市総合戦略等の策定に係るアンケート調査について

②平戸市人口ビジョン案について

③平戸市総合戦略案について

③その他

4. 閉会

○会議資料

①平戸市総合戦略等の策定に係るアンケート調査報告書

②平戸市人口ビジョン

③平戸市総合戦略（素案）

(13 : 31 開会)

●司会

それではただいまから、第4回平戸市総合戦略策定委員会を開催させていただきます。

本日の委員会の司会をさせていただきます、企画財政課の小出でございます。よろしくお願いいたします。

本日の委員会は、前回の第3回策定委員会におきましてご審議いただきました、平戸市の今後の人口推計案を受けまして、人口ビジョン案を作成しております。そして、総合戦略につきましましては、前回、骨子案ということで説明させていただいておりますけれども、素案という形での提示をさせていただいております。どうぞご審議のほどよろしくお願いいたします。

本日は、寺田勝嘉委員、寺田孝弘委員より欠席の申し出がございます。また、田淵委員の方から、少し遅れるとの報告をいただいておりますのでご報告させていただきます。

それでは、報告事項に入らせていただきたいと思いますが、委員会の議長は、平戸市総合戦略策定委員会設置要綱第6条の規定によりまして、会長が行うこととなっておりますので、石川会長、よろしくお願いいたします。

■会長

皆さんこんにちは。前回の委員会は台風で流れたということで、その後、私の方が調整できずに欠席させていただきました、皆様にお詫び申し上げます。その時の資料等については、役所の方から色々とメール等でいただいたりして、確認はしておりますけれども、人口の動向について色々と報告等があったというような形で聞いております。

では次第に基づきまして、第4回平戸市総合戦略策定委員会を始めさせていただきます。

まず、会議録の確認について、事務局の方からお願いいたします。

◎事務局

まず、資料の確認を行わせていただきます。本日、机の上に策定委員会の次第ということで配布しております。あと、総合戦略の策定に係るアンケートの調査報告書ということで、色が白い調査報告書があるかと思います。あと、11月5日に総合戦略の会議録とか資料①として人口ビジョン案、資料②として総合戦略の素案をお送りしてございましたけれども、本日、総合戦略の素案の差し替えということで、机の上にお配りしているものがあると思います。インデックスのところにもマーカーでオレンジ色のインデックスをしている方を本日見ていただければと思います。よろしくお願いいたします。

します。

それでは、会議録につきましては、前回お送りしております、基本的に内容等につきましては要点筆記で公開するというところでしております。既に第1回、第2回の策定委員会の資料等、あるいは会議録等につきましては、平戸市のホームページで公開させていただいているところでございます。前回、第3回の委員会の会議録の内容等について、何か不明な点等ございましたら事務局の方まで言っていただければ、修正をした後にホームページの方で公開という形を取らせていただきたいと思います。修正等がある場合は今週中、13日、金曜日までに事務局までご連絡をしていただければと思っております。会議録の確認等につきましては以上でございます。よろしく願いいたします。

■会長

では、次第にしたがって議事の方を進めていきたいと思っております。

まず最初、これは今日、机の上に配られている資料でしょうけれども、平戸市総合戦略等の策定に係るアンケート調査についてということでご説明をお願いします。

◎事務局

それでは議題の①平戸市総合戦略のアンケートの調査報告について、先ほどありましたとおり、机の上に配布しております白色の調査報告書でございます。前回の折に、速報ということでお示しをしております。

このアンケートでございますけれども、市民向けと高校生向けと、2種類のアンケートを行いました。20歳から59歳以下の市民2,500名、そして高校生500名を対象としてのアンケートでございます。前回の折に、若干アンケートの回収率が低いとかというふうなご指摘をいただきました。もう一度、高校の方にもご協力をいただきまして、回収のご協力をしていただきました。めくっていただいて3ページの方に最終的なアンケートの結果、集計、回収率等を記載しております。市民アンケートが2,500に対して607、24.3%。高校生のアンケートが500に対して183件の36.3%の回収率でございます。

前回の折に、アンケートの内容等につきましては詳しくご説明をしておりますが、もう一度おさらいという意味も込めまして、簡単にみらい研究所の方から説明をするようにしております。

◎みらい研

皆さんこんにちは。九州みらい研究所の中野と申します。非常に簡単ではございますが、こちらのアンケート調査につきまして、集計からちょっと見えた部分というところがございますので、そちらのところだけ、短い時間ですがご説明をさせていただきますと思います。

【①平戸市総合戦略等の策定に係るアンケート調査について】の説明

■会長

皆さんの方からご質問等はございませんでしょうか。

□委員

アンケートを見て感じたことでもいいですか。

この自由記述式のアンケートをざっと見させていただいたんですが、この中で一番私を感じたのは、やっぱり産婦人科のことです。これはすごい項目出ていますね。産婦人科が欲しい。小児科が欲しい。これは本当は、私がもし子どもを産むような年代であれば、絶対これは最重要課題にさせていただきたいことだと思いました。やっぱり、皆さんの思いも一緒だなと思いました。

それから、アンケートの 48 ページの上から 2 番目のアンケートやコンサル会社に依存しないで欲しい。これも大変重要なことだなと思っています。アンケートをいかにうまく結果を出して分析するかということも重要ですが、いらっしゃいますが、申し訳ありませんが、次のコンサル会社に依存しないで欲しい。これは行政の方に対して思っっしゃる思いだと思うんですが、コンサル会社に依頼していろんな資料を作っさせていただいていますが、市としても、自分なりの積み重ねのものを作っいただきたい。コンサル会社が作られたものだけではなくて、平戸市でも毎年積み重ねていくような資料として、そういう積み重ねの資料も独自のもので、依存しないで作っ欲しいと、これは私も共通の思いであります。以上 2 点、感じました。

■会長

なかなか 1 つ目のポイントは人口回復策という点では重要なことだと思うんですけども、何か事務局からはないですか。

◎事務局

出産関係なんですけど、今、市内の出生者数が 230 から 240 くらいなんです。前からこの部分については課題として持っているんですけど、普通のあれでは成り立たない部分があるんですね。例えば・・・などの部分では。公立病院にするととなると、公立病院は中南部地区にある市民病院しかないんですが、公立病院になると産婦人科医は普通一人では成り立たなくなるんですね、複数名がいなくちゃいけない。それから、生まれてくると小児科になるものですから、小児科の確保にも苦慮している状況で、非常に医師の確保もできない。複数名、特に一人も確保できないのに複数名が確保できないというのと、それから中南部地区にしても、必ずしも北部地区の人とか田平地区の人が皆さん係るわけじゃないというところもあって、昔から課題にはなっているん

ですね。ですので、今のところは出産前に対する助成ということで今のところ何とかしておりますけれども、それは課題としてずっと持っています。そういうことで医師の確保が非常に厳しい。また、ほかの診療科の医師の確保も難しいということでもありますし、全国的には小児科と産婦人科は特に医療の確保が厳しい状況です。ただ一応課題としては持ち続けておりますし、子育てとか安全な出産をできるような体制をできるだけ支援していくようなことを常に考えておりますので、付け加えておきたいと思っております。

それから、アンケートに依存しないということと、コンサルに依存しないというのは、同じようなあれなんですけど、今回は、最終的な起草は自治体の方で行うようになっておりますので、コンサル任せのそういう戦略をつくるということはしておりませんので、ただ、分析等につきましては、コンサル別機関にしてもらったほうが、費用対効果を考えてもそちらのほうが有利になりますので、そこらへんはご理解いただけるとありがたいです。

■会長

やはり、新しい計画を立てたりする時には、色々と必要な情報をどう集めるかということが課題で、一つにはいろんな部署が持っている情報というものがあると思うんですけども、アンケート、今回はコンサルを通してアンケートをしてもらったわけですけども、満足度とか重要度というようなものに関して言うと、割と公平に聞き取っているかどうかわからない部分で回収率3割を超えているというのは、大体の平均的な意見が取れたんじゃないかということが言えるんじゃないかと思って、そこにのみ頼るんじゃなくて、それをうまく活用してもらえれば、すごく独自の平戸の課題を的確に捉えて戦略ができるんじゃないかと思っております。

他に何かお気づきの点とか、質問とかご意見とかありましたら。

□委員

同じような意見と申しますか、考え方ですけども、この前もコンサルさんの資料説明等で感じたんですが、これは国の施策、県の施策の中で、その考え方に立って資料をお作りになっていると思うんですが、平戸市というのは、長崎県の中でも離島市を除いて一番僻地でございます。地理的に一番不利なところであります。資料の説明の中でも、確定的な悲観論に基づいて、それからスタートしているなという感じを受けました。やはりそこからは今日述べているような創造性のある立案は不可能かなという考えを持っております。昔の江戸時代にも立派な方々もいたわけですから、やはり地方創生ということは、ここには歴史とか遺産もございますが、そういった文化というのは、あくまでの生活の遺産でございますが、やはり安定した生活ができて、初めて地域に定住するということに繋がるわけですから、そのためには経済あつての地域、やはり経済を発展させる、あるいは創造していくというようなことで、楽観論は

あまりできませんが、ぜひそういう方向性でご提案いただきたいと思います。そうしないと総合戦略が机上の空論になってしまうのではなかろうな。回答率でもわかるように、地域と行政とのギャップが回収率 30% ちょっとしかないということですので、ぜひ創造性のある、平戸市にマッチしたご提言をいただければなど、我々が提言しなければいけないのしょうけれども、そういう方向で仕事を進めていただきますように、是非ともお願いしたいと思います。

■会長

基本的には総合戦略の委員会というのが、いろいろ出てきた案を最終的に調整したりすることになると思いますし、様々な情報をもとにして、それぞれの部会がいろんな取り組みを考えているということですので、そこで公開的な意見を出して、ここに上げていただければなど思っております。ほかにございませんでしょうか。

では、2つ目の議事、平戸市人口ビジョン案についてということで、こちらはそれぞれの委員の方に事前に配られた資料、それをもとにして説明をいただければと思います。事務局の方、よろしく申し上げます。

◎事務局

それでは、平戸市の人口ビジョン案について説明をさせていただきます。資料①をお開きいただきたいと思います。

前回、9月の策定委員会の折に、将来の展望ということで、2060年、2040年の推計のどこぐらいまでの人口の目標を持っていくか、それに向けて社会移動を何年に均衡させるか、合計特殊出生率を段階的にどうやって上げるような方向で持つていくかということをご審議いただいております。2060年で平戸市全体で2万人、2040年で2万3千人の展望ということで決定をさせていただきました。それに向けての目標の数字、それと今までの人口の推移、自然減、社会減、そういったものの推移等をまとめたものが人口ビジョンでございます。内容等につきましては、過去の表現等々をいろんな角度から分析しているものでございます。詳細等につきましては、おなじくみらい研究所の方からご説明するようにしております。

◎みらい研

では、説明させていただきます。

【②平戸市人口ビジョン案について】の説明

■会長

今の資料は、平戸市の将来人口をどのぐらいというような形で、いろんなケースに合わせた資料だと思うんですけども、2040年に2万3千人というのが、そこから出

てきた平戸市の推計ですけれども、この辺に関してご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

委員

今、33 ページの下の表が人口ビジョンの一番の結論だと思うんですが、みらい研の方にお尋ねします。この平戸市独自の推計というのは、みらい研さんがいろいろなシミュレーションから算出された人口数ですよ。そして社人研推計というのは総合戦略何とかの何もしなかった場合の最悪の数ですよ。下は総合戦略が効果 100%上がった場合の数ですか。それを確認させてください。

◎みらい研

総合戦略の効果が最大限になった場合、例えば 2020 年 3 万人、40 年から先で 2 万 3 千人、2 万人というところが、それを達成するために総合戦略があるということになりますので、この 3 万人、2 万 3 千人、2 万人というところは、合計特殊出生率の推移であるとか、社会増減とか、そういったところの推移を加味した上で、それがそのくらいの数字で動くから 3 万人、2 万 3 千人、2 万人というところで推計をしているという、これは数字的な根拠があった上での数字になります。

総合戦略事業という施策事業の一個一個というのは、それを達成するために、主としてこういったことをやっていきたいと思いますというところになりますので、当然、その効果が 100% 現れた場合には、この 3 万人、2 万 3 千人、2 万人というところは当然オーバーしてくる、達成できる。もしくは、総合戦略には中間評価といいまして、毎年進捗状況を確認するというところがありますので、その評価の際に、これでは 2020 年の 3 万人は届かないんじゃないかというようなところがあれば、計画の修正を行ったり、そういったところで 3 万人に近づける、もしくは追い越すくらいの目標でということになりますので、施策が 100% になると 3 万人になりますよという考えではない。推定として目標が 3 万人であるから、主としてこんなことをやっていきたいと思いますというような考え方になります。

■ 会長

よろしいでしょうか。

委員

わかりました。

■ 会長

他にございませんでしょうか。

□委員

今、出生率云々で、この前も県知事さんもおっしゃいましたが、出生率が少々上がっても、絶対数がこれ以上減っていけば何も効果はないわけですね。おそらく1%上がったって、絶対数がおそらく3も4も下がるわけですから。それよりも私は事務局にお聞きしますが、過去15年間ぐらい遡って、合併4町村の50歳くらいまでで転出された方のデータ、資料等は調べておられますか。おそらく詳細なものは支所に尋ねても持っていません。Iターンを呼ぶとか、不特定多数の人に声をかけるより、来るかどうかわかりませんが、実際に自分のふるさとに呼び戻すことがこの人口対策には欠かせないんじゃないかならうかと思っております。そのためには我々残った人がそれだけのインフラを整備し、働く環境を整備しなければいけませんけれども、いくらこんな戦略を立ててもそう効果があるとは思いません。ですから、今からそんな時間がかからないと思いますので、是非ともそのデータをもとに各産業界、農協、漁協、商工会議所をお願いをして、一緒になって呼び戻す、そういった運動をすることが最も効果的な対策になると思いますので、そのデータの収集をぜひお願いしたいと思います。以上です。

■会長

事務局の方は。

□委員

これはおそらくもっとらんとする。

◎事務局

今、●●委員さんから、過去5年間、10年間とかの単年度ごとの移動とかについてのご意見がございましたけれども、すべてデータ化しているという状況ではございません。昨年とか、25年、26年の単年度での年齢ごとの転出者数ということで、直近で見させていただいて分析をしている状況でございます。その中で、先ほどみらい研究所の方からありましたように、高校、大学を卒業しての15歳から24歳までの転出が極端にマイナスになっている。25歳から以後は、転入転出が概ね均衡している。そういう状況でございます。ですから、高校、大学を卒業しての新たな職をつくるというものも一つのポイントになっているのかなということでの認識をしているところでございます。

□委員

高校はその後のことであって、要は子どもを産む、その人たちが転出したら、残っている人は生まないわけですから、後がうまくいかないわけですから、その人たちをどう呼び戻して、地元に戻ってきていただくか、それ以外に私はIターンを呼ぼうが、

ドラスティックに人口が増えるようなことはないと思います。できたら、マイナスのことばかりですが、それが成功すればプラスになるんじゃないかなと思うしております。以上です。

■会長

人口推計というのは、私たち直近のデータをもとにして、特に社会的な増減の影響で出たり入ったりする人がいて、かなり分析が難しいものかなと思います。基本的には自然増減で言うと、今すごく高齢者が増えているので、当分はまた亡くなる人の方が、生まれてくる人より多いということはあって、減少はあるかと思います。いろいろな取り組み、事業が総合戦略でも立てられていて、ここには数年後の先の数値目標は、特に雇用の部分で人口回復というか、人口減少の歯止めはかなり期待したいなというところがあります。ただ、その雇用の質も、高齢者が多い職種よりも、やはり若い人が好むような職種があるかどうかというところも壁となっていると思いました。

それと、転出入で言うと、転出の方は県内が多くて、特に佐世保が多いというようなことも先ほどの資料にもあったかなと思いますけれども、佐世保あたりぐらいだったら、住まいは平戸市内でも、通勤というような形になった時に定住ということもできるんじゃないかなと思いながら、ただ、平戸市も合併してすごく広いので、田平地区のあたりとか、生月地区とか的山大島とか、平戸の中南部のあたりでもかなりこうした転出状況というのは違いがあるのかなと思ったんで、そのあたりの地域ごとの人口の変化ですとか、おそらくかなり減るところもあるし、それほど減らないところもあるんじゃないかと思うので分析をしていただければなと思ったりしました。

それと、転出が多いのは地方では高卒あたりぐらいの年齢層に引っかかるころと、いことで、国勢調査は5年ごとなので、それをずっと見ていくとここにあるような、18歳を挟むような年齢層で、大体地方では減少が多くなっているというようなことがあるんですけども、逆に地方では数年都会にいたけど戻ってくるというUターンがそこそこいたりするところがあるんですけども、そのへんの状況みたいなものがこの分析から出てこなかったですかね、Uターンですけども。例えば高校生の・・・とか・・・と思うんですけど。コンサルの方、何かなかったですかね。

◎みらい研

ちょっとデータが足りなかったんで。

■会長

もし、20代半ばとかそのあたりで戻ってくる人がいるようであれば、そのあたりの人たちの雇用というのは必要かなと感じました。産業振興では特に今出ているのは観光以外では漁業、農業が中心ですけども、漁業、農業は高齢化してきて、この若

返りも大事なポイントかなと思うんですけども、そういったUターン者がいたら、Uターン者の声を聞くことも考える必要があると思いました。要するに、都会に出ていったけれども、結局戻っても仕事があるから戻って来るといったようなことも聞いたりしますので、戻っても仕事がある。働きがいがある仕事があるという状況に持っていければなと思います。

他に皆さんの方からございませんでしょうか。

ここの平戸市の推計は社人研の推計よりもかなり高い歩留まりを取っているということですけども、このあたりは総合戦略の各種施策がどのくらい成功するか、達成できるかということにかかっているように思います。

では、ないようでしたら、3つ目の平戸市総合戦略案についてということで、本日差し替えの資料がありましたけれども、それをもとにして説明をお願いします。

◎事務局

その前に、先ほど●●委員のご質問についてですが、9ページの下の方にあります女性の年齢階級別の人口移動の推移があるんですけども、ここの地区ごと、4地区の数字がいただければということで解釈してよろしいのでしょうか。もしあればということで、これは女性の年齢別に、例えばおっしゃられます人口減少について、若い女性がいないと数値を高くしても一緒ということが前提になると思うんですけども。

□委員

ご夫婦自体がですよ、その絶対数が落ちればいくら2人産もうが、それが5人になろうが、その夫婦の数が10人あったところが3人になってごらんよ。私は1組で10人産んでと言えない。その絶対数を増やすために、減少に歯止めをかけるために地元の人と一緒に、女性と民間と住民と一緒に帰ってこんやと、そういう働きかけをしない限りは抜本的な解決にならないのではないかとっているわけ。そのために転出なされた筆頭者がわかれば配偶者はわかるでしょう。おそらく一緒に行っているんですよ。筆頭者がいけば4人は必ず出ていますよ。

■会長

圧倒的に高齢者の方が数が多いので。

□委員

高齢者は残っております。

◎事務局

長期的な15年ぐらいのデータをということで言われたんですが、それが1980年か

らの人口移動の推移なんです、それとは別に地区別のデータがあるかどうかお尋ねしたんですが。

□委員

おたくで持ってくださいも大事でしょうが、各支所単位で産業界と住民と一緒に働きかけをすることがより効果的な対策になるんじゃないかならうかということですよ。抽象的なものを持ってきたって、あなた方、机上の空論にしかならない。具体的なもので対策を練らないと。

◎事務局

失礼しました。

それでは説明に入らせていただきます。

【③平戸市総合戦略案について】の説明

■会長

平戸市総合戦略の現段階での素案を説明していただきました。特に黒丸、かなりたくさん新規事業ということで書かれていますけれども、これはまだ検討中のところもあるそうです。皆さんの方からご質問等ございませんでしょうか。

□委員

4つほどお聞きしたいことがあります。お願いします。

まず1つ目は、前回の会の時に、部会の方で検討をお願いしたいという会の要望として、総合戦略の中に子ども達の役割を入れるということが1つ。それから2番目に、ホームページ等を利用して基幹産業をPRする。3つ目が一次産業の次世代への取り組みをどうするかを盛り込んで欲しいと、この3つの要望を確か皆さんまとめて出そうということになったと思いますが、これをどうされたかということ。

次からは素案の中身をお聞きしていいでしょうか。

まず、18ページの防衛関連施設の誘致事業。具体的にこれは中身をどんなものを持ってくると考えていらっしゃるのでしょうか。ちょっとこれはびっくりしました。

次が、22ページの重要実績評価指数の中に、保育所の待機児童数を0から0にということで項目が上がっているんですが、これは現状ではどこでも定員割れしているんじゃないかと思うんですね。定員割れしていてマイナスのところを上げないといけないうのか、返ってこれは定員割れを持ち上げるのが課題じゃないのかと逆な考えではないのかと思いました。

それから次ですが、27ページ、算数・数学検定事業、これは既に実施されている事業になっているんですが、これは前のページの学習状況調査結果が県平均以下である

ということを受けて、これは上がっている事業だと思うんですが、これはなぜ数学、算数を特記されているのかということ、ほかの教科ではないのかということですね。

それから、この上の方の事業として、絵本はじめましてブックスタート、この中に移動図書館として訪問実施をしているということが上げてありますが、通常私が想像するのは、移動図書館というのは、移動バスということです。今のこの未来創造館にはバスはないはずなんですね。それを移動図書館としてということは、どういう活動をされているのかということをお聞きしたいと。以上、その何点かをお聞きしたいと思いました。よろしくお願ひします。

■会長

幾つか有りましたけれども順番に。

◎事務局

最初の部会での子ども達の役割等の設置でございますけれども、今の文言でわかりにくいところも当然あるかと思ひます。皆さんの各委員さんからご提案をいただいたことに対しても、ちょっと自分の言ったことがここに上がっているみたいだなというのもあったかもしれません。そこらへんも踏まえてお話をすることが、部会の方でも皆さんの意見は各部会全部にお渡ししていますので、それがはっきりとここに見えてきていないというのはあるかと思ひますけれども、最終的にわかるようにはっきりとお出しするようにしたいと思っております。

ホームページでございますけれども、これも本年度リニューアルを業者と契約を結んで、今ごちゃごちゃしているのをシンプルにして、項目ごとに、あちこち飛ばないでいいようにまとめたものにしようということで、構築を進めているところでございます。

一次産業の支援関係ですけれども、これが先ほどご説明する時間がなかったんですけれども、既に農業、漁業関係で、例えば若い世代に3年間の支援をするとかいったものが、現実的にスタートしております。特にふるさと納税の関係もあって、牛関係でも肥育牛が不足気味なんです。今は限定でやっている状況なんです。数がないので出荷ができないんです。でも牛は2年半育てないと肉になりませんので、それを今のうちからやりましょうということで今年度からそういったメニューを作って取り組んでいるところでございます。

18ページの防衛の方なんですけれども、私もちょっと触れましたが、部会でどんなプランでもいいからということで上がってきたものでございます。私もこれが出た時に、この部会の時に参加していないので詳細はわからないんですけれども、とりあえず面白いネタということでしか聞いていないので、具体的にはちょっと国防関連の施設を作って、呼び込んで、観光資源で活用しましょうという流れみたいですね。それが防衛関連施設を誘致というのが具体的にどれくらいなのかということも聞いていな

いんですけれども、何か変わったことをやらないとということによってこういう案が出てきたのかなと思っています。具体的に何を持ってくるというのは全然聞いておりません。

KPIの関係の20ページの保育所ですね。確かに定員割れというものが現状もあるかと思っています。そこはどっちみち定員数を下げてきていると思うんですよね。子どもの数も減っているけど、定員の数も当然下げてきていると思いますので、そこらへんのバランスをもう少し検討させてください。これは調べてきます。

27ページの算数・数学検定、これはおそらく教育委員会の学校の先生方の中での既存事業でございますので、すみません、私の方ではすべて把握していないので、お答え今すぐは出ません。

ブックスタートですね、これはおっしゃるとおり、未来創造館には移動自動車は確かにございません。今やっているのは、各公民館関係の図書室を活用した本の事業という現状がございます。その中で、ブックスタートと移動図書館が同じ形でのお話だったんですが、実際は、担当課の方では切り分けてされていることとっております。実際、最初に未来創造館を作るときに、本当はする予定はあったんですよね。いろいろな諸事情によってこれがなくなったわけなんですけれども、おそらくまだ担当者レベルではしたいということもあるでしょうし、いろいろな意見が上がってきているのも事実でございます。

今日、私どもが申しましたけれども、一般の方々、10月いっぱい募集をしました。何か提案あったらどうぞということ。そうしたら9件集まってきております。ただ9件すべていいものか、悪いものかということも当然最終的になってくるんですけれども、ちょっと考えられないということもあったりとか、それはいいなという部分もございました。そういった意見は、そのまま部会の方に落としまして、もしかしたら今度黒丸で上がってくる可能性もございます。そこらへんを踏まえて、今日も皆さん見たとおり、場所によっては黒丸がないところもあったものですから、そこらへんもできる限り新規の事業を入れたいと思って考えておりますので、そこらへんを各部会で出すように努力してもらおうつもりでおります。

ちょっと簡単ではございますが、今の質問に対するお答えにしたいと思います。

■会長

他に皆さんの方からございませんでしょうか。

□委員

何回もすみません。私は水産業の代表ですので、15ページと16ページに素案が載っているわけですが、概要につきましては検討してこられたものと思っております。ただ、16ページの事業名が8つほど載っておりますが、この事業がすべて現在でも、国、県の事業でございます。創生会議として、一つの戦略として載せるとすれば、何ら新しいものはないわけですので、これはあくまでも素案でござい

ますから、12月までにまとめるんですか。

◎事務局

今月いっぱいですとまとめます。

□委員

いつでもいいですから、おそらく水産課の方でこの提案はなされると思いますので、できたら、本案策定までに、水産振興協議会とすり合わせをした上で戦略案を作ってくださいますように、ぜひ実行していただきますようお願いしたいと思います。そうしないとなかなか本当の一次産業を振興しろというご意見も多いわけですから、そうならないとおそらく平戸市の再生はなくなっていきますので、実現可能なものを作りたい。また、全てを市の行政の方をお願いするということでは、我々市民としても無責任と思います。応分の負担をしながら、我々も提案をさせていただきたいと思いますので、ぜひよろしく要望させていただきます。よろしくお願ひいたします。

■会長

12月に会議をした時には修正したものが提出される。

◎事務局

もうちょっと肉付けされた形での提案をさせていただきますので。

■会長

スケジュール的にはまだもうちょっとあるんですかね、最終的に確定する。

◎事務局

部会があと1回から2回行うようにしております。それが終了した後に課長レベルでの会議をします。それが終わった後に部長レベルの会議をしまして、そこで決まったものが12月2日にお出しする流れです。

■会長

部会はどんどんしていただいたスケジュールだそうです。もし今ここで皆さんの方からも付け足しやご提案があればお願いします。

□委員

具体的にですけれども、観光のところで18ページなんですけれども、来年、世界遺産ということですから、今のままだったらおそらく、交通アクセス自体を変えない限りは、どう考えても平戸の観光はそんなに増えないと思う。福岡から羽田を往

復する時間と、福岡から平戸に行く時間というのは大体同じくらいなんです。車だったら2時間ですけれども、公共交通期間を使ったら大体4時間ぐらいかかる。それぐらいの魅力がないと観光客が来ないということなので、少なくとも具体的に高速バスとか直通バスを福岡、佐世保、長崎空港、どこまでできるかわからないですけれども、その誘致活動が1つ。

あと、平戸についても周遊バスがないと、観光客は車で来る人は限られているわけだから、東京とか、例えばロンドンの人が車を運転してくるわけないのだから、周遊バスも検討するべきだと私は思っている。

それから観光ガイドを、アンケートの中にも観光ガイドの支援という言葉があったんですが、平戸の場合、観光ガイドの支援というか、それが大体年間30万くらいしかないんですけれども、長崎市とかは何億円単位でやっているのに余りにも少ないというか、少なくともどのような観光ガイドが平戸市にあるのかということホームページとかでウェルカムガイドとか、生月とか春日講とか、中野の鄭成功とか、観光ガイドできる人はいると思うんですけれども、そういう人たちがどうしたらいいのかということホームページとかでわかるような仕組みを作るべきだと思います。

それから英語の発信なんですけれども、平戸市の場合ホームページを見ても、英語でどのような市というのがわかりにくいということなので、昔はレムコーさんが作ったことがあったと思うんですけれども、それをもうちょっとわかりやすく改善したりとか、そういうことが必要なのかなと思います。

もう一つが、食育を、今回はTPPも出てくると思うんですけれども、農業とか漁業のよさというものをもっと子ども達とか、農業高校とかも連携して、もっと何かやれば、平戸の食の魅力というか、学習だけじゃなくて、観光にもつなげることができるし、農産物とか水産物とかのアピールにもなれるんじゃないかということなので、食育とかができれば入れていただきたいと思います。以上です。

■会長

それぞれの部会でこうした意見があったというのをお願いしたいと思います。観光客は平成31年に数万人増ということで、これは西九州道は、夏あたりまではこの地域辺りはできているんですか。

◎事務局

まだ全通はしていませんね。

■会長

そのへんのインパクトがあるとまた変わってくるかなと思うんですけれども。あと数年と言っても、実質4年ほど先の話なので、ちょっとどういう取り組みがこの・・・のために必要なのか検討する必要があるかもしれないですね。他はございませんでし

ようか。

□委員

今、子育ての延長保育とかそういうことで、市から補助金をいただいているんですけども、市から補助金をいただく時は報告書を今後書かなければいけないと思うんですけども、私は全くの素人なので、そういう時に行き詰まったりするんですが、運営方法とかぜひ、今後、市がそういう事業を民間の方々に委託をしていこうと考えておられるならば、NPOさんとか今後増えていくことも見込まれますので、何か事業を始めるときに勉強会とか、こういう時に相談できる窓口があればいいなというのを思っています。そういう事業があればなと思いました。

□委員

先ほど、●●委員さんから食育のお話などがございましたけれども、33 ページに黒丸で跡継ぎ応援事業というのが載ってまして、これには大変興味深く説明を聞いておったんですが、要するに、平戸の若者がなぜ跡継ぎをしないかということですよ。したがって、ぜひこれは言葉だけが踊るじゃなくて、若者が平戸に残る、つまり跡継ぎ、地元に残り家の後を継ぐ人への支援、まさしくこれにしっかりと取り組んでいただくようなことが非常に大事だと、1つは先ほど●●委員がおっしゃった食育もそうだと思うんですね。あるいは子育てなどを含めて、あるいは老後の人生を含めて、平戸ならではの自然環境の良さとか、そういった子ども達にたいする食の大事さ、食の安全さ、自然環境の豊かさ、同時に老後は老後でそういったものが人間生きていく上で、何が一番豊かか、何が一番幸せか、そういったものを平戸はもっと発信すべきだと思っています。

やっぱり、家の跡継ぎさえすれば、農業、漁業だってこんなに後継者不足という事態にはなっていないんですよ。これはもちろん地方行政だけで片付ける問題ではないのかもしれませんが、国にも強く働きかけをしなければいけませんけれども、やはりこの際、地方創世の戦略会議として、ぜひ取り組んでいただきますように、私どもとしても常々そう思っていますので、要望しておきます。

□委員

私の方から、19 ページの産業の育成と支援ということですが、前回の委員会の場でも意見を述べさせていただいたんですけども、企業誘致ではなくて、市内に事業所を構えていっちゃって、これから将来、地元の核になる企業に成長していただく。その企業の育成支援をやっていくと、こういう目線のKPIですか、これを出していただくというところで検討していただくわけにはいかないかなと思っているんですが、核になる企業の指標としては年商だったり、従業員の数だったりとか、そういったところになると思いますけれども、将来人口が減っていく、その中で雇用

を支えていく、市外からその企業に勤務をするという人を集めることができるような企業が増える事によって、大きな対策になってくるのかなと思いますので、この言葉通り、この指標が分かるものを入れたほうがいいんじゃないかと思いますので、ぜひ検討をよろしくお願いいたします。

■会長

指標にそうした企業育成のということですか。成果がわかるようなものをというご提案ですね。その他。

□委員

先ほどの●●さんの件ともちょっと関わりがあるんですけども、観光の件でKPIとか基本指数とか、これは何を持って決めているのかなと思ひまして、例えば、先ほどの待機児童の数もゼロからゼロとか、入れる意味はないですよ。観光のところとかでも、基本目標数値の中で、3ページのところで、産業の振興の数値目標の2項目目、平戸市は観光振興を図れていると思う人の割合（市民アンケート）、つまり市民がうちの市は観光対策ができてますよと意味あるのかなと。観光するのは市民じゃなくて外から来た人がするものであって、市民が観光対策ができていているからよかったということはないですよ。だから、取る人を外からきた人にとったりとかすることも必要じゃないかなと。だから、この数値 目標をもう一回見直す必要があると思います。

その上で、17ページの観光目標の観光の振興の中でKPIの中での年間宿泊者数、外国人宿泊者数、宿泊だけに絞って重要項目として上げていますけれども、平戸が宿泊型観光を目指すのか、それともハウステンボスに泊まりに行った人にちょっと訪れて平戸を回ってもらって、お金を落としてもらって行ってもらうのか、そういう全体的な戦略もこれを見る限りではわかりませんし、主な時期を見ても、ちょっとこれに掲げているものを実現するためにということで見ても、何かあまり代わり映えがしないような、特に防衛関係施設は、これは観光かと思うんですけども、これも複合関係なので安易に観光に結びつけるというのは短絡的過ぎるかなと思うところです。

あとは歴史とかを重視して誘致するとかとなっていますけれども、歴史関係のことはほとんどこれに入っていないですよ。世界遺産関連事業、世界遺産は大事ですけど、平戸市は独自に平戸市文化財みたいな制度を作っていると思うんですよ。その登録件数を何件から何件に増やすとか、そっちの方を入れたほうがまだKPIはいいんじゃないかなと。

ただ、これも素案ということなので、ここでいろいろ突っ込むのもあれでしょうけれども、もう一度観光とか、特に平戸は観光産業で、農業とかも大事ですけど、観光産業をかなり力を入れるべきところだと思うので、もう少しこらへんを見直したほうがいいんじゃないかなと。ちょっとこれではあっさりしすぎていてわかりにくいと

いう気がしました。

■会長

確かに保育所待機児童数ゼロというのは、これはお金つけなくても実現できそうなことで、他に何か。

□委員

返って今は待機者どころか定員が足りないんでしょう。余っているんでしょう。

■会長

だから別な指標に変えたほうがいいか、もしくは他にもあるので、なくてもいいかなと思いますし、もちろんこうした指標の中にはちゃんと統計データとか金額が出るような実績も必要だし、市民満足度とかそうしたものも要りますが、確かに観光に関しては市民に聞くよりも観光に来た人の満足度というのが一番大事なポイントかと思しますので、ちょっと3ページ目に書いてある市民アンケートのところは違和感があるかなと思いました。

◎事務局

一応、●●委員さんから言われた水産業の振興の部分であるとか、例えば後継者の対策、それから観光のKPIとか数値目標、実際私もそこらへんは指摘をして投げかけております。観光についてどれだけの事業でこういった数値を伸ばしているのかとか、そういったことについても先ほどいった交通アクセスの環境とか、集客とかも含めて、今のままではKPIを設定して目標を達成できるのかというのを多方面に投げかけておりますし、水産部門については浜プランとかもありますので、そこらへんの関係も含めて、それから先ほどちょっと言いましたイカの振興策とか、そこらへんも含めて育てる漁業とか、そこらへんももう少し研究したり、しっかり算出していく必要があるんじゃないかと、一応言っておりますので、そういったことを含めて12月までにもう少し調整させていただきたいということと、それからこれは毎年検証するようになっていますので、そこら辺の不足する部分については、毎年あれをしながらPDCAサイクルに則って、できるだけよいものということですのでしておりますので、今回作って終わりということではなくて、実現ができなければ、毎年見直ししながら数値を上げるような施策を必ず盛り込んでいくという形で作らせていただきたいと思いますので、もう少し次回までに練り直しますので時間をください。

それから、先ほど農業についても水産業についても、後継者の支援が国県補助金とか伴う支援もあるんですが、それ以外の分野の支援についてがなかったりしますので、そのところを考えていきたいということと、それから商店街の振興計画を今ちょっと調査をさせていますので、それが商店街の部分についても何らかの施策をしていき

と思っています。特に大型店舗がこの頃できてきて、その大型店舗を止めることができないんですね、法律上認められているわけですから、ですので、それよりも商店街の魅力を高めることが必要だと思いますので、そういったところの施策も考えていきたいと思っています。まだ不十分なところもあるかと思いますが。

□委員

ちょっと農業後継者のことで、今、国はどういった方向、考え方を持っているかという、新規就農者、あるいは異業種が農業などに参入する、それはものすごい支援をしようとするんですよ。ところが一例を上げますと、例えば家で父親が和牛の経営をしているとするじゃないですか、その息子が、親父さんがやっている規模をさらに規模拡大をして、例えばさっきお話のあった繁殖だけじゃなくて、肥育まで取り組んでみよう、それにはないんですよ。違う作物ならあるんです。畜産農家の息子がイチゴをすると、施設園芸をする。それにはハードもソフトもあるんですよ。こんな馬鹿げたことを平気で国は言うんですよ。新規就農者。

父親の背中を見て育って、技術の伝承も小さい時から受け継いでいるんですよ。その息子が親がやったものをさらにバージョンアップしようというものに対してはないんです。施設園芸農家が施設園芸をさらにすると言っても無いんです。

だから、どうも今回のTPPをめぐる国内対策にしても、私も立場上、つい何日か前に農水に行ってきましたけれども、結局そういう目線で、そして安倍総理が言う、農業を成長産業に持っていく、国内の消費量は萎んでいくんだから、海外に輸出をしていこうと、彼らの考えている頭の中は家族農業じゃないんですよ。ですから、平戸における第一次産業というものについては、平戸独自の、したがって先ほど私は跡継ぎ支援と書いてあったでしょう。跡継ぎ支援をしていただきたい。そこあたりをぜひ、今後さらに肉付けしていただければと思っています。

□委員

さきほど委員さんがおっしゃっていた、外からの企業誘致、それより地元の企業に新規雇用を促すような、そういったものを戦略として立てるべきじゃなからうかと。ごもっともでございます。

よそから入ってくれば、おそらくどこの市町村でも向こう10年間ぐらいは固定資産税が減免される。うちでも今日まで過去5年間で約40数名の、女性型ですけれども新規雇用を作りましたけれども、何ら一切そういった手立て、●●さんがおっしゃるような片手落ちのような施策がこれまで打たれてきております。ですから、せっかく地元企業があるんですから、企業がもう少し多角的な経営をなさって雇用を生んでいくということを推奨して、その普及推進に当たっていただきたい。その補助金をくれとなれば、おそらく多大な財政が伴いますので、できたら10年間ぐらい県外の企業を誘致する例に基づくぐらいの固定資産の減免をするぐらいの施策を、ぜひ今度

の戦略の中に謳っていただければなと思います。よろしく申し上げます。

□委員

私は3点なんですけれども、31ページの安心・安全なまちづくりがあるんですが、商店街や密集地に、この内容は防災が主になっていると思うんですが、やはり防犯カメラの設置ということで、犯罪の抑止力という部分で、この部会に商店街に該当するのか、地域の防災に該当するのかは別として、どこかの部分で安心・安全なまちづくりの推進を図るためには、抑止力を図るためには、やはり防犯カメラの設置が必要じゃないかというふうに思っていますので、一応部会の方に下げていただければと思います。

2点目が、全ての項目で主な事業、事業名と事業概要が書かれているんですけども、やはり行政だけではできない事業ばかりです。その中で連携する団体が必ず必要になってくると思いますので、特に新規事業なんですけれども、事業概要の横にでも、想定される団体とか学校とか、グループとかというふうなところがあれば、今後推進していく上ではわかりやすいかなと思っています。現に、この中に私ども商工会議所で想定している黒丸の事業があります。私たちの意見を聞かないまま載ってるみたいなんですけれども、そういうようなことがありますので、今回は特に連携が必要になってくると思いますし、市が推進している協働のまちづくりというのもあります。ですから、中南部、特に大島、生月につきましては、関連する事業につきましては、まちづくり協議会が中心となろうかと思っていますので、そういうような点からも、できれば想定される団体等があったほうがわかりやすいかなと思います。

3つ目ですが、一応、今、各部会で出されている案があるんですが、細かな実施内容とか書かれていません。ですので、最終的にこの委員会が採決を下すのかどうか、すべて採択するのかどうか、またはこの事業は内容が不明確だから計画に入れなにかいというようなことまでこの委員会でされるのかどうか、その確認をしたいと思っています。

■会長

1つは各部会への要望がありましたけれども、最終的な決定というのは、これは素案ができて、どういうふうな形になりますか。

◎事務局

意見を申し述べるという形で、定義はございますので、法的な強制的なものではないんですが、できれば事務局としては、合意を得た上での最終案を出したいと思っていますので、皆さん方の大半が、これは絶対のめないよとなれば修正せざるを得ないことになろうかと思っています。

■会長

委員の過半数以上が反対というものが出てきたら、当然ここではそれは飲めないということになると思いますし、少数意見なんかも場合によっては出て来たりすることもあるかもしれませんが、それはつけて持っていったらいいと思いますが、それともここで最終的な。

◎事務局

たぶん1回目の時にお配りしていると思うんですが、策定委員会の設立目的が、総合戦略策定にあたり広く意見を聞くために、としているものですから、意見を聞く会議ではあるんですよ。ただしちょっと言いましたように、皆さんの意見が反映されていなかったり、意見が明らかに違う事業を盛り込んだりすることにはなりませんので、そこは最終案として出していただいて、皆様から合意いただけるような案にしてからということになりますので、場合によっては会議をまた持ってもらったりとかいうことにはなると思いますが、一応意見を聞いて、それを取り入れるための会議ですので、本当にこれは委員の皆さんがこういうのを上げてもらっても、というのを上げるということにならないと思いますので、最終的には市の本部会議がありますので、そこで決定するということになりますので、そういうことをご理解いただきたいと思います。

■会長

そこに意見を求めるための委員会ということで、一応、出てきた案に対して統一した意見をできればどうでしょう。時間のほうが予定の3時半になりましたけれども、もしこれだけということがあれば、ちょっと拾えてないところがいろいろあると思うんですけども。

□委員

いろいろ今までお話をお聞きして、とにかく人口減少の歯止めをかけるにはどうするかということで、これは避けられないことだと思います。ある程度まで歯止めはできる、いろんなことをすることによって歯止めはできるかなと思いますけれども、これは避けられないということを痛感するところがございますけれども、基本的に現在の雇用を確保する、そして新たな雇用を創出、そして雇用の場をどんどん促進するということが一番の基本的なことじゃないかと思うんです。

しかし、私は商店街のことを考えるんですね。とにかく跡継ぎ、これは農業でも漁業でも同じようなことを言われましたけれども、跡継ぎがないというのが一番の原因だろうと思います。既に商店街を見回してみても、しばらくは大丈夫かなと思ってはいますが、やはり跡継ぎがないところはかなりあるわけです。ですから、何年か後にはそこは閉めざるを得ないと、現役で今やっている方が商売を続けなければ辞めざるを得ないというような形になろうかなと思いますので、これの跡継ぎをしっかり確保してもらおうということと、20ページにありますとおり、空き店舗の活用をや

はり強力に押し進めていくということが大事かと思えます。

しかし、実際問題として、貸したいけれども、やはりそういうものをきちんと整えていない。例えばそこに家主さんとしては住み続けるわけですがけれども、1階なら1階の部分の貸したいということですがけれども、いろんな手を入れないと貸されない。そういうような形がある。貸したいけれどもなんともできない。そういうことに対して支援をしてもらえればということをお願いします。

それと、一緒に書いています1DAYシェフ開催事業と書いていますけれども、空き店舗を活用して、短期間の飲食店と経営を行うという、この短期間というのが非常にいいんじゃないかなと思うんですよ。やはりそこで商売するということになると、やっぱりいろんなことを考えると二の足を踏むということになりますけれども、短期間、1か月とか2か月とか、そういう形でもやれるんだということを発信するとやってみようかと、ダメならしょうがないと思えますけれども、やれるという手応えを得たら、その人たちが商売をそこで始めるということになりかねないなと思えますので、ひとつそういう臨機応変な、いろんな支援策が必要かなということを感じます。

それからあと一つ、ここに載っていませんけれども、今非常に高齢化がどんどん進んでいっています。私たちのところにも車で買い物に来てもらいますけれども、現状でもそういう不満はあるのかもしれないけれども、あと何年か先には、来たくても来られないという人たちに対して、買い物対策というか、これが考えてしかるべきだと思えますよ。今は買い物を代わりにしてくれる買い物ヘルパーさんたちがいて、その人たちがお手伝いをしているというようなこともありますけれども、これは今から大きな問題になろうかと思えますので、それを私たち事業者だけで何とかしろと言われても、なかなか難しい面があるというのが実情です。人がかかる。やはりいろんな手間暇がかかる、それに経費が発生する、そういう中でやるということになると、それでなかなか、やろうと思うけれども継続的にやれる見通しが立たないものですから、思い切って踏み切れないというような現状があります。そういうことに対して、ある程度行政も一緒に支援してもらって、そしてこういうふうになれば無理なく出来るんじゃないかというようなことを、そういう道筋をつけてもらったらなということを感じます。以上です。

□委員

私はそれまで島原に1年半いたんですけれども、やはり校長として学校の運営上何を考えるかという時に、やはり地域に残る生徒をできるだけ多く育てたいなということで、地域をキーワードとした我々ができる範囲のいろいろな取り組みをしているんですけれども、そういった中で18ページですが、さきほど●●委員さんも言われましたけれども、こういった事業の中で、我々は県立の高校ですので、県と市というのは何もないような形ですがけれども、市の事業等についてはなかなかわからないようなところがありまして、例えば体験型観光推進ということで、学校独自でスクールツー

リズムということで、農業体験をして、うちの学校で1日農業体験をして、その後平戸市内の観光とか民泊とか、そういったものに繋げるような事業を、学校と地域とできればいいなというようなことで、今は単独で、今度で3回目なんですけれども、子ども対象とか、大人対象とかいろんな形で、そういった学校の中でしか、学校の中というのは限られていますので、それを地域と結びつけていけないかなということでやっております。

特に18ページの特産品マップ作成とかパンフレットとか、そういったものに対しても、やはり若者の感覚、若者のアイデア、そういったものをこういった事業の中で入れられるのかなというのも1つあるんですね。というのは、19歳から、がたっと県外に行くという中で、県外に行っても、やはり18歳までに平戸の良さを、やっぱり地域の良さを自分たちで発見していけば、将来的に1人でも2人でも地域に残って何かせんといかんなというようなことができるんじゃないかなと考えているんですね。

この間、うちの動物科学科の生徒が大島小学校に行ったんですね。ああいうのも、今のところは学校の負担で行っています。だから、そういった島の子ども達もそういったものを勉強するという機会は非常によかったと、私自身よかったと思うんですけども、そういった中で県立学校であっても小中学校と一緒にあったりとか、地域と一緒にあったりとかいうような、やはりそのへんをうまく、我々も市の事業の中で、予算の中でやれるというのは、なかなか厚かましくて言えない部分もあるんですけども、やはりそういうことで小中学校、高校時代に地域を知って、地域を知ることから地域に戻ってくるということにもつながるんじゃないかと思っておりますので。

農業高校はやっぱり地域の学校となり得る、先ほど●●委員さんからも言われましたけれども、農業高校の本来の姿は後継者育成というのは本当の姿だと、今、4Hクラブとも連携したりとか、いろいろ関係機関と連携していきながらですけども、一人でも二人でも多く農業後継者を育てようという時に、先ほどの跡継ぎということについては、この事業の中で終わらず、やはり我々の学校を含めた形で、関係機関と学校を含めた形で情報を交換していかないと、なかなか難しいんじゃないかと思っておりますので、我々も生徒が主役で、やはり地元を愛して地元に残るということを念頭に教育をしておりますので、遠慮なく学校の方にも言っていただいて、できることはできる、できないことはできないというのがありますけれども、そういうようなことをやっていただける事業であればいいなと思っておりますので、よろしく願います。

□委員

校長先生、就職の方もよろしく願います。

■会長

いろんな意見、特に要望というものも出てきたと思いますが、まだ言い足りない方がおられたら、たぶん事前に欠席する場合に何か意見書みたいなのを書く紙をもらわれていたと思うので、これを使ってでも、言い忘れていたことがあったら、また事務局の方にお出しいただければと思います。またそれぞれの部局の方で審議してもらって、取り入れるべきところは取り入れてもらえるかと、またいらないところもあったかもしれませんが、検討していただきたいと思います。

全体的な流れを聞いてみると、後継者の問題とか、今ある企業を維持していくということも非常に大きなポイントであるということで、これまで大体右肩上がりの成長時代というのは企業誘致ということで、それがプラスになるんだということだったんですが、今は中がどんどん絞んでいってるので、そこを小さくさせていかないというのも大事なポイントかと思うので、実際、その辺への支援で現状維持、またプラスが出るのであればそうしたところも検討していただく、これがまちづくりの一番の基本かなと思うので、そこをちょっとそれぞれの部局で検討していただくことかなと思って、これはかなりの委員の方から同じような意見があったように思っております。

まだまだ意見があるかもしれませんが、あとは各委員の方がこちらの用紙等を使って事務局にお聞きいただければと思います。ということで3番目の議事は終わらせていただきたいと思います。

最後に4、その他ということですが、事務局の方から。

◎事務局

その他の件で、先ほど課長の方から申し上げましたとおり、次回の日程ですけれども、12月2日で調整をさせていただければと思っております。再度文章は出すように予定しておりますが、12月2日昼からということで第5回目になります、そこでよろしくお願ひしたいと思ひます。

□委員

12月2日というのは、議会との関係ですか。

◎事務局

はい。

□委員

それ以降のスケジュールはどんな形ですか。

◎事務局

その後は、12月の定例議会の中で、全員協議会で皆様からご承認していただいた戦略、すべてですね、人口ビジョンから含めたものをご説明いたします。そこでもまた

意見とか出てくる可能性もございます。最終的なものを3月議会でもう一回出しまして、議決じゃないんですけれども、ご意見を最終的にまとめて国に提出という形になります。

□委員

戦略会議としては次で終わりですか。

◎事務局

12月の後は1回を想定していますが、大幅な変更がない限り1回、多くても2回だと思っております。

■会長

12月とは別に1回。

◎事務局

2月ぐらいまでに。

■会長

12月の後は2月ということで。12月は当初予定していなかったということですが、ちょっと1回ではなかなか意見を聞き取れないスケジュールということでもう一回あります。

それでは、これで本日の委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

(閉会 15:45)